

地域の育成力を考えるフォーラム

テーマ「～つなげよう 次世代へ育成の力を～」

○コーディネーター

前かつらぎ町青少年センター事務局長

澤田 卓也

○パネリスト

かつらぎ町青少年育成連絡協議会副会長

森 亜紀

紀の川市青少年健全育成推進協議会那賀支部副支部長

地村 美貴

有田市糸我地区青少年育成会会長

伊藤 雅秀

【 澤田 】

皆さん、こんにちは。

本日コーディネーターを務めさせていただきます澤田でございます。この3月までかつらぎ町教育委員会の青少年センター事務局で、青少年の健全育成などの仕事をさせていただいてました。よろしくお願いします。

それでは、リレー式次世代健全育成事業の一環で、「つなげよう 次世代へ育成の力を」と題しまして、地域の育成力を考えるフォーラムを始めたいと思います。

まず、この事業の趣旨ですが、地域の大人・青年が一体となって、青少年の健全育成に取り組む体制を地域で構築し、地域の青少年が青少年を育てるといふ環境を整備していくことを目的としています。

本日はパネリストとして、青少年事業に取り組んでいただいています、かつらぎ町、紀の川市、有田市の3名の方に出席していただいていますので、3つの地域の活動内容をお伺いして、地域の育成力の向上に必要な取組について考えていきたいと思っています。

それでは、かつらぎ町の森さんからよろしくお願いします。

【 森 】

地元かつらぎ町青少年育成連絡協議会副会長の森亜紀です。よろしくお願いします。

まず、自己紹介から始めさせていただきます。

私は、地元の地区の子ども会会長、役員などを数年させていただいた後、「笠田青少年育成連絡協議会」の会長を経て、「かつらぎ町青少年育成連絡協議会」の副会長に就任し、現在、4年目となります。

私は、工場働きながら3人の子供を育てるシングルマザーです。3人といましても、長女は大阪でネイリストをしている23歳、長男は専門学校に通う19歳、次女は紀北農芸高校の1年生です。つまり、子ども会と言われる世代の子供がいない状態で、子供が全員成人になるまであと数年です。

私のポジションは有識者で、子ども会のことを他の人よりよく知っている、

子ども会に長く携わっているということで、出来るだけ多くの行事に参加させていただいています。

年齢は実年齢より10歳若く見られますが、現在47歳です。

それでは、子ども会の活動内容とこれからの課題についてお話しさせていただきます。

私は、地域の子供たちから「もりあ」と呼ばれ親しまれています。いつも子供たちに囲まれているので、「子供が好きなんですね」「子供たちから人気がありますね」などと言われますが、実は数年前まで子供は苦手でした。

子供は純粹で無垢ですが、無知で無防備な分、この人は敵か味方か、本気で相手になってくれるのかを本能的に嗅ぎ分ける力を持っています。このようにごまかしがきかない相手に対してどう接すれば良いかわからず、苦手意識を持っていたのだと思います。

そこで考えたのが、「子供だから」と子供扱いするのはやめようということでした。子供は身体が小さく、大人より経験が少ないため未熟だというだけで、「一人の人間」「一人の命」として尊重しようと考えました。

子供たちと遊ぶ時は一緒になって真剣に遊び、手加減はしません。子供たちは本気になって相手をしてくれる私のことをちょっと他の大人とは違うと感じ、私の周りにはいつも子供たちが集まるようになってきたのだと思います。

そうすると、あんなに苦手だった子供たちと接するのがおもしろくなってきて、子ども会活動自体が楽しいものになってきました。

地区単位の子ども会の主な行事は、キャンプ、クリスマス会、お別れ遠足などです。

地区単位の各子ども会の代表が集まって構成された「笠田青少年育成協議会」では、小さな子ども会では出来ない、大きな規模の活動として、「笠田祭り」という夏祭りや、子供店長が屋台を出す「子ども夏祭り」などを開催したり、公民館や地域の団体の方に協力していただいて、「もちつき大会」や「ビンゴゲーム大会」なども開催しています。

さらに、町内には8つの地区の青少年育成協議会がありますが、その8つの団体の代表が集まって構成された「かつらぎ町青少年育成連絡協議会」では、さらに大きな行事として、「子どもあそびのチャレンジ大会」や、「子ども文化祭」など、町内の子供たちが1日楽しく過ごせ、他の地域の子ども会との交流が図れるイベントを開催しています。

また、楽しいイベントだけでなく、「子ども会指導者研修会」や「育成会役員研修会」などを実施し、育成会の資質の向上、育成会活動の充実のための支援、情報交換や提供を行っています。組織の規模に関わらず、各団体には必ずメリットもデメリットもありますので、そういった意見を交換し、会の向上を図っています。

さて、今、メリットもデメリットもあると言いましたが、現在社会は、核家族化、少子高齢化と言われますが、コミュニティが希薄になりつつある中で、子供を取り巻く環境は、私たちが子供の頃とは明らかに違います。

しかし、子ども会活動は、地域の人に子供たちの顔を知ってもらう機会、子供たちが地域の人を知る機会となり、このような地域を巻きこんだ活動は、メリットと言えるでしょう。

皆さんも近年の台風や地震で、地域の方と関わることの大切さや隣の住人の顔を知らない怖さを感じたと思います。今、地域を巻きこんで活動するということを見直さないといけない時期に来ているのではないかと思います。

そして、このような環境だから起こる問題の1つに、役員の女性化というのがあります。この場合、女性は主婦ということになります。子ども会というのは、子供がいる親というのが前提ですから、特に地区の小さな子ども会は、役員のほとんどが女性となります。

主婦が会議やイベントに出席する場合、家を空けることになり、子供を連れて行けない会議などは、子供を預けられる人が必要となります。それは、家族の理解や協力が不可欠です。家族の理解や協力が得られないと、最悪の場合、家事に支障を来したり、夫婦関係や嫁姑関係に亀裂が入りトラブルに発展しかねません。これは、デメリットといえるでしょう。

そのため、役員のなり手が無いというのは、どこの組織でも抱えている問題の1つだと思います。

子ども会の役員になると大変、仕事が忙しく行事に参加できない、子供が小さい、子供が発熱したなど、様々な理由がありますが、子ども会に関わっていただけると、子供と一緒に行事に参加することになり、子供と会話が増え、子供の交友関係がわかってくるなど、普段見えていなかった部分が見えてきます。また、子供たちに楽しんでもらいたい、楽しい思い出をたくさん作ってもらいたいという気持ちが芽生えてくるかもしれません。

なり手が無いのは、役員だけではありません。今日は司会をさせていただいているかつらぎリーダークラブのリーダーも同じです。

和歌山県でも地域の団体と連携して、青少年がリーダーとなり後輩を育成する「リレー式次世代健全育成事業」といわれる事業を実施していますが、かつらぎ町でも「子ども会リーダー育成研修会」という事業を実施しています。

小学5年生の初級前期から高校1年生の上級後期までを級別に分けて研修会を実施し、子ども会や地域で活躍できるリーダーの育成に力を入れてきましたが、参加人数は年々減少しています。研修会に参加する人が減ると、将来リーダーになる人数が減るのは明らかです。

「子ども会」とは、本来、「子どもによる子どものための会」だったはずですが。仲間との遊びを通し、共通の体験をすることで、異年齢との仲間活動に必要なことを学ぶという目的があったと思います。

大人は、それを見守り、指導し、時には助言・援助して、その活動が安全で円滑に運営され、発展させていくという役割がありますが、大人はどうしても手出しや口出し、行事のお膳立てをしてしまいがちです。

そんな時、重要な役割を担うのが、リーダーの存在です。経験も知識も子供たちより豊富ですが、大人と呼ぶには未熟で若く、子供と大人の間のリーダーたちは、子供たちにとって、優しく、頼りになるお兄ちゃん、お姉ちゃん的存在であり、「いつかリーダーのようになりたい」という憧れの存在でもあります。

人を動かし人を育てるのは、やはり人です。魅力的なリーダーが増えれば、将来のリーダーのなり手も増えるはずですが、重要な役目を担っているリーダーの減少を止められないというのが現状です。名簿上にはかなりのリーダーが登録されていますが、実際に稼働しているリーダーの数はほんの一握りで、しかもそれをどれくらい把握出来ているのかというのも謎です。

1人のリーダーが担当できる子供の人数には限界があります。眠っている人材の発掘や眠っている人材に対する声かけなどの普及活動が、もっと必要になってくるでしょう。

今後、リーダー研修に参加してもらいやすい環境を整え、参加したいと思う魅力的な内容を検討するなどの見直しが必要となってきました。リーダーが子供たちと一緒に活動・活躍できる場を作っていかなければなりません。

「子ども会の振興は、将来の地域作りの学びの第一歩となる」と言われます。

リーダーを中心に子供達の自発性、創造性を引き出すために、まずはリーダーの育成です。「子どもによる子どものための子ども会」の復活こそが地域の活性化につながると信じ、さらなる発展のため力を尽くしていきたいと思えます。

【 澤田 】 ありがとうございます。かつらぎ町の森さんからの発表でした。パワーポイントでそれぞれの事業の映像があり、内容がよくわかりました。

それでは、次は紀の川市の地村さん、活動内容の紹介をお願いします。

【 地村 】 紀の川市青少年健全育成推進協議会那賀支部副支部長の地村美貴です。よろしくをお願いします。

まず、自己紹介から始めさせていただきます。

私は、青少年推進員以外に、地域活動連絡協議会那賀支部那賀父母子ども会の会長、紀の川市スポーツ推進員、紀の川市消防団女性分団長をさせていたでいます。生年月日は、先程お話ししていただきました森さんより一つ歳下の46歳です。結婚するまでは高野口町で育ちましたが、現在は橋本市の紀和病院で看護助手をしています。

それでは、本題に入ります。

まずタイトルですが、『「とびだせNagaっ子 林間学校 in 高野山」～歴史を塗り替えるという挑戦～』ということで、お話をさせていただきます。

歴史を塗り替えるということで、まず改革前は、「通学合宿」「夢工房」「とびだせNagaっ子」「バス研修」「おはよう声かけ運動」などの行事を実施していました。改革前の行事は学習目的という印象が強かったです。

「バス研修」は関西国際空港へ行き、飛行機の操縦体験や機内食体験を楽しみました。

「とびだせNagaっ子」は紀北青少年の家で、ピザ作り、そば打ち体験、My カップ作りなど、たくさんの体験をしました。また、いろいろなニュースポーツ、雪遊び、ダンスを取り入れた体操、木材切りなど、体を動かす体験もしました。

紀北青少年の家は、プログラムが豊富で、1泊2日という限られた時間を有意義に使うため、分単位のスケジュールを組んで、たくさんの体験をさせていただきました。これは私たち素人の推進員ではとてもこなすことが出来ない時間調整や内容だと思いました。

また、子供たちへの関わり方が神業で、指導者は知識を十分に学んだ若い方が多く、子供たちにも時代にも合わせた対応が出来ていて、紀北青少年の家の指導者は、まさに「指導者のプロ」と言えると思います。大変、感謝しています。

しかし、この「とびだせNagaっ子」が改革の鍵となってしまいました。事業内容が毎年ほぼ同じですので、5年生で参加してくれた子供たちが、6年生になったら参加してくれなくなりました。学校の行事でも紀北青少年の家の合宿があり、学校から行く合宿と同じように真面目に参加しなくてはいけないという子供たちの思い込みがあったり、引率している推進員が真面目すぎて子供たちが嫌がるということもありました。これは昭和の子供と平成の子供の対応の変化に推進員がついていけなかったからだと思います。

このようなことから、申込みは定員に満たさず、やむなく中止せざるを得なくなりました。

そこで、那賀支部の年間行事を見直すことになりました。

「とびだせNagaっ子」は実施場所を変えてみることになりました。

「夢工房」はいろいろな種類の工作をしていましたが、名前を「子ども夢のくに」に変え、内容もクラフトコーナー、チャレンジコーナー、縁日コーナー、おやつコーナーなど、子供たちの楽しみを増やしました。

「おはよう声かけ運動」は、内容を変更せず続けています。

改革後の年間行事はこの3事業としました。

改革の鍵となった「とびだせNagaっ子」ですが、現代っ子の気持ちを虜にするために、どうしたらいいのか考えました。

実施場所は、高野山がいいのではないかという案が出ました。高野山は子供たちが行きたいと思うのか不安でしたが、外国の方に人気があるのだから、きっと子供たちも楽しめる何かがあるはずだと思い、高野山に決定しました。

実施時期は、寒い冬から、高野山は夏でも涼しいので夏にしました。

参加対象学年は、5・6年生から4・5・6年生にしました。

活動は、昼間の活動となるウオークラリーから、子供は夜に外に出かけたがることを踏まえ、夜遊びついでに学習ができるムササビ観察をメインにお知らせをすることにしました。

また、ムササビ観察以外に高野山での楽しみを考えました。

高野山まで電車とケーブルカーで行く、奥の院まで案内人の説明を聴きながら歩く、精進料理を食べる、夜食に子供達に人気のブタメンを食べる、朝のお勤めに参加する、林間学校参加記念として世界でたった一つの物作りをする、高野山をテーマにした絵を描いてバッチを作る、火育ということでカレーを作る、ということを実施しました。

そして、今年は楽しみをもう一つ増やし、競技用の紙飛行機を一日目の夜に作成して、二日目にみんなで飛ばしました。

紀北青少年の家で勉強させてもらったことを踏まえ、高野山に変更し、歴史は塗り替えられたのかということですが、申込み受付初日に受付時間の前から並ぶ保護者の姿が見られ、初日でほぼ定員になりました。参加してくれた子供たちは、「来年も参加したい」「来年も必ず申し込む」と約束してくれました。

歴史を塗り替えるという挑戦が始まって3年目になりますが、今年は6年生が6人参加し、その6人のうち5人は3年間連続して参加してくれました。また、6年生は中学生になっても参加したいと言ってくれました。

最後に、今後、私たちが出来ることは、年代により流行や興味に変化があるので、常に子供たちと関わる環境を大切にし情報を得ること、子供たちの希望を消さないために、例えば、中学生になっても林間学校に参加したいというのであれば、ジュニアリーダーになることを提案し、林間学校にジュニアリーダーも参加できる環境を整えること、子供たちに大人になるのが楽しみと思ってもらえるように、子供たちの声に耳を傾け同じ目線で付き合っていくことです。このように次世代に育成の力を繋げていきたいと思えます。

パワーポイントで、夢や希望、いろいろな思いを詰め込んだ紙飛行機を飛ばしている子供たちの映像を見てください。

御清聴ありがとうございました。

【 澤田 】 紙飛行機を飛ばしている映像ですが、音が出なかったということですが、お話と状況で伝わってきました。ありがとうございました。

最後に有田市の伊藤さん、活動内容の御紹介をお願いします。

【 伊藤 】 糸我地区青少年育成会会長の伊藤雅秀です。よろしく申し上げます。まず、始めに糸我地区並びに当育成会の概要について説明させていただきます。

す。

有田市糸我地区は、有田市糸我町内にあり、人口は約1800人です。有田市の東部に位置しており、熊野古道が通り、それに沿うように本朝最初稲荷神社や中将姫会式で有名な得生寺があります。また、有田みかんの発祥の地として歴史的にも有名な場所です。

糸我地区青少年育成会は、青少年育成市民会議推進委員、青少年指導員、防犯自治会、糸我小学校育友会三役など20人余の役員で構成されています。会員は、賛助会員として約45名が加入していただいています。他に評議員として地区内の各種団体の方々に協力していただいています。

それでは個別の活動報告をさせていただきます。

まず、「いも茶がゆと餅つきの集い」は、平成4年度から実施している事業です。リレー式次世代健全育成事業を活用させていただき、今年で27回目となります。

「田んぼの学校」で収穫した米を使い、ガスなどのない時代のように山へ芝刈りに行き、昔ながらの釜戸で作ります。老人クラブの指導の下、糸我小学校の児童を中心に、育成会会員、小学校保護者、地域の方々の協力により、郷土料理でもある茶がゆにサツマイモを入れる昔ながらの食生活を体験します。併せて、平成10年度より餅つきも実施しています。

平成17年度より、小学生の時にこの事業を体験した地区内の高校生がジュニアリーダーとして参加し、小学生を指導するなど、小学生の模範となる活動を行っています。

また、平成26年度より、この事業が多くの人々に支えられ成り立っていることを知ってもらうため、地区出身の中学生が裏方の活動に参加するよう促しています。これにより、中学生が高校生になった時、自然に活動に参加、協力するよう、高校生の参加意識の向上を図っていきたいと思います。

この事業では、小学生から老人クラブの方々まで幅広い世代間交流ができていますが、近年、糸我小学校の児童数も減少傾向にあることから、市内の他の小学生にも体験してもらいたいと考え、市の広報誌を通じ、参加を呼びかけています。

こうした活動の経験から、災害が発生した場合、地域で乗り越えられると考えられます。

次に「田んぼの学校」は、平成13年度より、前会長の山崎佳彦さんが学校の給食の残飯が多いことに驚き、食の大切さ、米作りの大切さを学んで欲しいと実施しています。翌年14年度よりアイガモ農法に取り組み、食の安全を確保し、またその翌年15年度より卵からの孵化に取り組んでいます。

体験の中から昔ながらの稲作を学んでいくことは、子供たちの成長にとって、とても大切なことだと考え実施しています。

稲作は総合的な学習において小学5年生が中心となり、田植えは老人クラブ

の方々の指導の下、全校児童で取り組んでいます。

平成25年度には、当育成会が、食育推進ボランティア表彰の内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

次に「夏休み自然探検隊」は、平成13年度より糸我小学校の5、6年生を対象に、子供たちがいろいろな体験をしてほしいという思いで実施しています。探検は県内と県外を交互に、主に自然体験活動を行っています。

平成23年度より、この活動を体験した子供たちが高校生になり、ジュニアリーダーとして参加し、異年齢交流も出来ています。

また、この活動は、独立行政法人子どもゆめ基金の自然体験活動分野の助成を受けています。

次に「資源ゴミ回収」は、平成12年度より糸我子どもクラブと合同で、2ヶ月に1回実施しています。糸我小学校5・6年生にボランティア参加を呼びかけています。

この資源ゴミ回収と田んぼの学校によるアイガモ農法の取り組みが評価され、糸我小学校が平成30年度和歌山県環境賞の大賞をいただきました。

次に「おもしろサイエンス教室」は、平成26年度より化学や理科が大好き、おもしろという子供たちを育てたいという思いで、和歌山県青少年育成協会の協力をいただいで実施しています。

夏休みから始まり年6回実施していますが、当初は全回とも公民館に講師の先生に来ていただいでいたしましたが、平成28年度から糸我小学校全児童が対象となったため、県立自然博物館、和歌山市立子供科学館、関西電力イーパーク、太地町くじら博物館などにおける体験も取り入れています。

それではそれぞれの課題について報告させていただきます。

まず、「いも茶がゆと餅つきの集い」ですが、近年、少子化により糸我小学校の児童数が減少してきていることでもあります。習い事などで参加数が減少してきていると感じます。児童や保護者にこの活動の意義をどう理解していただくかが課題です。

次に「田んぼの学校」ですが、昔ながらの稲作を行い、アイガモ農法で実施しているため、雑草の処理に大変苦悩しています。

また、学校行事と平行して実施しているため、実施日が急に決まる上、昼間の作業となるので、参加できる大人の方が少なく、人員も固定化され、大きな負担となっているのが現状です。

次に「夏休み自然探検隊」ですが、近年、児童の参加率は高く、保護者からも、「家庭では出来ない体験をさせていただいた」「高校生になったらジュニアリ

ーダーとして参加させたい」など、高い評価をいただいています。

また、子供たちからも、「高校生になったらジュニアリーダーになって参加したい」などの感想をいただいています。参加意思があっても、学校の補習授業やクラブ活動などにより、日程的に参加できないことが多々あります。高校の校長先生に直接お願いすることもあります。生徒自身は先生に言いにくいようですし、クラブ活動も団体競技の場合、休むのが難しいようです。

今後、何とか上手く日程調整を図っていきたいと思いますが、高校側の理解をお願いしたいと思っています。

次に「資源ゴミの回収」ですが、年々紙類の資源ゴミの量が減少してきています。それに伴って、我々育成会全体の活動費が不足する事態になりかねない状況になってきました。自治会等に協力をお願いしていますが、近年、新聞を購読しない家庭が増えてきたように思います。各方面から補助金や助成金をいただいています。更なる補助をお願いしたいと思っています。

次に「おもしろサイエンス教室」ですが、今年度でまだ5回目ですが、参加する児童が固定化しつつあります。体験内容を新しくすることが難しいため、指導者として参加してくれる役員の負担が大きくなっています。

今後、体験内容の見直しや新たな参加者の加入などについて、検討していきたいと考えています。

【 澤田 】

ありがとうございました。

3名のパネリストの皆さんから、いろいろな活動内容を報告していただきました。

こんなことやっているんだな、うちと同じだな、あんなことやりたいな、など思うことがいっぱいあったと思います。

私の方から、課題はありますか、今後はどうですか、などと伺いたかったのですが、既に皆さんから言っていただきましたので、短縮バージョンになってしまうことを御了承ください。

かつらぎ町の森さんの報告の中に、子供扱いはやめましょうというお話がありました。一人の人間として扱うというのはどういうことかということですが、これは子供であっても大人の目線で見るときところがあるということです。そういう視点で考えていくと、子ども会活動が楽しくなってきたとおっしゃっていただきました。

また、印象的なことは、子供たちが地域の人を知っている、地域の人が子供たちのことを知っているということです。

さて、ここで問題です。答えなくて良いので、考えてください。皆さんの隣近所に住む子供を5人以上思い浮かべられますか。10人思い浮かべられます

か。一度、隣近所にどんな子供がいるのか、振り返ってもいいのではないかと
思いました。

紀の川市の地村さんの報告の中に、林間学校で高野山へ行ったというお話が
ありましたが、なぜ高野山かと思いましたが、高野山は有名な所で、子供たち
が興味を持ってくれるということで、案が出てきたということによろしいです
か。

【 地村 】 はい。

【 澤田 】 このように改革してヒットしたということですが、私も一緒に行きたいなと
思いました。1番楽しかったのは、何ですか。

【 地村 】 カレー作りです。

【 澤田 】 食べることかなと思いましたが、やはり食べることでした。子供たちの楽し
そうな顔がパッと浮かんだということでしょうね。私、行っていませんが、そ
んな風に思いました。

有田市の伊藤さんの報告の中に、今後についてということで、課題に対しど
うしていくかというお話がありましたが、そういうことを考えるのは、一人で
はできないと思います。

皆さんは、「お仕事なんですか」と聞かれた時、今している仕事であれば、ス
ッと言えると思います。しかし、「父親業してます」「母親業してます」と答え
た人がいました。その心は何かと言うと、子供のことを感じてやっているとい
うことだと思います。

しばらくして私は、「父親業してます」と答えた人に、「父親業って言ってま
したが、孫がいるのですから、父親業はしてないのではないですか」と聞いて
みました。そうすると、その人は、「地域のおっちゃん業してます」と答えまし
た。その心は何かと言うと、子供に関心があることをしてますということだ
と思います。

関心を持つということは、地域の親馬鹿、地域のおっちゃん馬鹿になるとい
うことです。馬鹿は「釣りバカ日誌」の馬鹿と同じです。馬鹿は、こっけい
であるという意味と一途になるという意味があります。どちらの馬鹿か、言わな
くてもわかっていただいていると思いますが、地域の親馬鹿、地域のおっ
ちゃん馬鹿になってほしいと思います。その心は、子供に常に関心をもって接して

いくということです。関心を持つということは、子供を知ること、子供を知ること、地域が良くなるということです。ちょっと乱暴な言い方ですが、そう思いました。

本日は短い時間でしたが、最後まで御参加いただきまして、ありがとうございました。今回は、皆さんからの質問時間は設けていませんので、パネリストの皆さんに聞きたいことがあれば、直接もしくは育成協会や市役所・町役場の関係者を通じて聞かせていただくということによろしいでしょうか。

【森・地村・伊藤】 はい。

【澤田】 早く返事をいただきました。また、そういう中で交流を図っていただけたらと思います。

本日、参加していただいた皆さんは、良かった、良かったなど、いろいろな感想があるかと思いますが、パネリストの皆さんの体験談や活動内容を聞いていただいて、青少年の健全育成のために活躍・活動している人、頑張っている人がいるということで、御理解いただけましたら大変有り難いです。

つたない司会でしたが、本日はありがとうございました。